



高橋 政悦 議員

# 授業時数の確保をどう考えているか

教育長 学校運営協議会を通じて保護者や地域住民の意見も反映させたい

カリキュラム・マネジメント … 学校の教育目標の実現に向けて、子どもや地域の実態を踏まえ、教育課程（カリキュラム）を編成・実施評価し、改善を図る一連のサイクルを計画的・組織的に推進していくこと

**問** 2020年度から全面実施される小学校の次期学習指導要領では、英語の教科化などに伴って、標準授業時数が3年生以上でそれぞれ年間35時間分増えると聞いている。

子どもたちにとって、どんな時間割や授業日数がふさわしいのか、保護者・地域も一緒になって考えていく必要があると思うが、本町の考える効果的な「カリキュラム・マネジメント」について伺う。

## 教育長

3・4年生が「外国語活動」として年35時間、5・6年生については「外国語科」として年70時間の授業時数を確保する必要があります。スムーズに移行できるように、新年度（2019年度）から授業時数を確保していく。社会に開かれた教育課程の在り方については、校内だけでなく、保

護者や地域の人々を巻き込んだカリキュラム・マネジメントの確立が重要とされている。学校運営協議会を通じて保護者や地域住民等の意見を吸い上げ、学校運営に反映させることにより、「社会に開かれた教育課程」の実現につながるよう取り組んでいく。

# 連帯保証人の要件緩和を

町長 管内状況等を踏まえて検討する

**問** 本町が求めている町営住宅の連帯保証人は、「町内に住所を有する者2名（ただし、1名に限り2親等以内の町外在住者にする事ができる）」としている。他の市町村から転入・移住しようと考えている方が町内在住の連帯保証人を探すことは難しいことだと思ふ。

町長の公営住宅において、連帯保証人のこうした地域要件が定められている理由を伺う。

## 町長

町営住宅又は共同施設の保管義務や家賃の納付義務を遵守させること、

これに違反したときに連帯としての責務を保証する目的で2名の連帯保証人を設定している。本町在住者としているのは、入居者の安否確認の立ち会いや、問題行動などが発生した場合に速やかな対応が可能であり、早期の対応につながるためである。家族構成の現状及び管内状況も踏まえ、要件の緩和について検討する。



2020年度から小学校で英語が教科化されることに伴い、その授業時間をどう確保するかが全国的な課題となっている

# 交通弱者に対するモビリティ政策は

町長 予約型乗合タクシーを終了し、交通弱者支援事業の試験運行を実施したい

**問** 子どもや高齢者、障害者の移動手段には制限があり、安心して暮らしていくための施策として、コミュニティバス、予約型乗合タクシー、清水帯広間の路線バスを運行している。現在のコミュニティバスは平日運行であるが、

## 町長

土曜日の運行については、スーパーの特売日である土曜日にも運行できないか。

## 問

朝のコミュニティバスと路線バスを接続できないか。帯広方面の医療機関利用者にとって路線バスはJRよりも利便性が良く、利用者増が見込めるのでは。

## 問

高齢化により交通弱者が増え続け、停留所にも行けないなど、将来的にもタクシーへの転換がこれらの解決につながる経費も削減できると考える。費用対効果の試算と将来的な方針について伺う。

地区を巡回するのに約1時間かかることから、清水帯広線バスの「十勝清水駅前発8時20分」への接続は困難である。

町長 町営住宅又は共同施設の保管義務や家賃の納付義務を遵守させること、

モビリティ政策 … 1人1人のモビリティ（移動）が、社会的にも個人的にも望ましい方向（過度な自動車利用から公共交通等を適切に利用する等）に変化することを促す、コミュニケーションを中心とした交通政策



川上 均 議員

## 町長

清水地区の巡回は午前8時から午後5時までで、一人の運転手による運業務の範囲で実施しており、コミュニティバスが

## 町長

予約型乗合タクシーを実際に利用した方は延べ32名、実数では5名と少ない状況であり、実証運行は平成30年度で終了す



車体の側面に第九のメロディー音符が描かれ、明るい雰囲気となったコミュニティバス